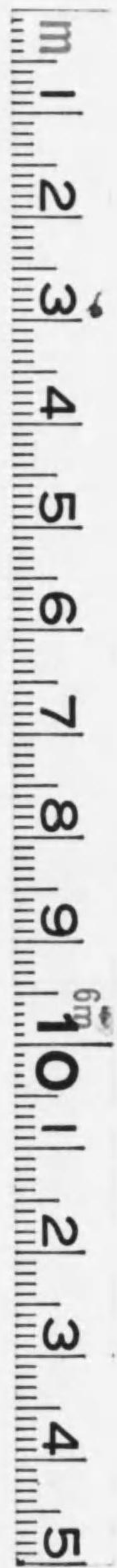


特 252

41

編會好同物植林農巢鷹

言方物植の田秋



始



特 252
41



昭和四年五月二十七日秋田縣立農林學校ニテ撮影

深山産ノモノカ又ハ栽培シテキルモノハ大形デアアルガ普通平地ニ天生セルモノハソノ環境ニヨツテ小形デアアル。コノ秋田路ノ特徴ハ莖ニ綿狀ノ毛ガアルコト(之ニモ毛ノ立ツテキルモノト、全然綿狀ヲナスモノト兩ツアル)ト縦ニ深溝ノアルコトデアアル。東北各地ニ普通分布ハシテキルガ、あきたぶきの名コソ秋田ノ里ノ誇リデアリ、農産物加工品トシテナホ一段ソノ特徴ヲ發揮セシムベキデアラウ。



セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
.....
二八	二六	二三	二二	一八	一八	一六	一五	一〇	八	七	六	五	一
フ	ヒ	ハ	ノ	ネ	ヌ	ニ	ナ	ト	テ	ツ	チ	タ	ソ
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
.....
四四	四三	四一	四〇	三九	三八	三六	三七	三四	三三	三三	三三	三三	三九

編者のことば
語彙

秋田の植物方言目次

次にをこがましいことではあるが、拙き私の植物方言採集上感じたまゝを断片的に記してみたい。

○私自身この郷土人でないことがどれだけ採集上不便を感じたか知れぬ。それでこの植物方言集中にも之による誤謬が少からずあることと思ふ。之に關しては親切な諸賢の御訂正をお願いしたい。

通名センブリの方言は私達にはセンフリと聞へるが、事實セではなく又ヒでもない。ヒエンフリかシンフリであるらしい。(一印はアクセントを示す)なほ御参考まで私の郷里(紀州)の方言を記せば、センブリである。

ヌスビトハギ、キンミヅヒキ、タウコギ及ヤブジラミの方言はそれらの種實が秋日吾人の衣服に意地悪く附着するとの意味から「エヂクサレ」と呼んでゐる。之を私達がその語源から考へて記入すれば、イヂクサレとなるであらう。かくすれば發音を誤記したものといはねばならぬ。或はまた之はウヂクサレか、イヂクサレかも知れぬ。

スイバの方言は「スカスカ」か、「シカシカ」か、はたまたシユカシユカか、スイカスイカか。

○實際採集に當つて、その土地の方言がない時、一つでも多く吾々に提示しようとする氣分が湧いて、トンデモない自我流の方言をアミ出されることがある。又この反對に極端に遠慮せられることがある。何れにしても注意し打とけて本當の方言を採集せねばならぬ。

○ワサビを方言フスベ(或はフシベ)といふ所と、ヒノ(又はセンノ)と呼ぶ所とがある。例へば、北

秋田郡荒瀬村、南秋田郡内川村及馬場目村、河邊郡船岡村、仙北郡荒川村、田澤村及西明寺村では、ヒノを以てワサビの方言としてゐる。なほ青森縣下北郡川内村でもヒノである。他の生徒出身町村ではフスベと呼ぶらしい。

フスベとはワサビを食用するとき熱湯中に入れて湯がくことをフスベルといひ、それからフスベとなつたのでなからうか。この所淺學の私には不明である。又ヒノ(又はセンノ)の語源も同様或るコトバの轉訛?位に考へてゐる。御教示をお願いしたい。

○北秋田郡鷹巣町にてギシギシを方言シノベといふ。それで之を青森縣上北郡三澤村の方言シノハ(通名シソ)と比較してみると、前者は春季残雪をしのぎ出るとの意からシノベとなつたかと思はれ、後者はシソノハからシノハになつたのである。だからシノハとシノベとはよく似てゐるからといふので、その植物を實見せずして同一にみることは不可である。シノベはシノネの轉訛であるかも知れぬ。

○エンドウは鹿角郡一帯にスガワリ(又シガワリ)と稱し、青森縣西津輕郡岩崎村ではツチワリグサと呼んでゐる。前者は凍氷をわつて出るの意であり、後者は土をわつて出るの意味である。又之をニドマメと稱するは早く出るため一年に二度作れるとの意からである。何れにしても早春もえ出るこの植物の性状を表はしたものである。

○民謡「おばい」

オバコ ドコサ行ク 後ノ小山コサ、

ホンナコ折ルニ。

ホンナコ若イトテ 繩コケン番コ枕コニ

澤ナリニ。

X

オバコ何歳ナシニナル コノ年暮セバ 十ビツト七ツ

X

十七オバコナド何シニ花コナド咲カナイトナ、

咲ケバ 實モヤナル

咲カネバ日蔭ノ色紅葉。

私はこゝにこの民謡を記して「ホンナ」(通名ヨブスマサウ)に關する語源を自我流に解してみたい。然し更に「オバコ」をオホバコから…などといふ程我田引水でないことを斷つておく。即ちオバコは現在なほ仙北地方に存する方言バッコ(長女以外の娘をいふ)に敬語オを添へたものである。

本當に菜のやうである。本當に菜だ。かうした意味から「ホンナ」といふ方言が生れたのでなからうか。そしてまた「ボンナ」と呼ぶのはホンナの轉訛であらう。私の僅かな採集材料を以てすれば、仙北郡、雄勝郡、由利郡においてホンナと稱し、河邊郡、平鹿郡、南秋田郡、北秋田郡、鹿角郡において、ボンナといつてゐるやうである。又青森縣下北郡川内村でもボンナを方言としてゐる。町村別に之を調査するとホンナ、ボンナの方言使用區域が分明になり、面白い方言分布の系統が現れるかも知れぬ。又一生徒は南秋田郡内川村においては、方言ホンナとボンナを使用し、その植物も各相違したものであると述べられたが、何ものを「ホンナ」と稱し、何ものを「ボンナ」と呼ぶのか今のところ其の實物

に接しない故、説明することが出来ぬ。

○シドケ(通名モミヂガサ)とは「シガドケ」から出たのでなからうか。方言シガは氷のことである故、氷がとけると間もなく出てくるこの天生食用植物につけた名稱であらうと考へる。

○鹿角郡は舊南部藩の領たりし故に稍この種方言においても他郡と相違せるものがあるやうに思はれる。

○植物方言の語源をたづねてみると、その形から來たものが最も多い。

即ちチギタリスを鹿角郡尾去澤村笹小屋にてはキリソーと呼ぶ。その花、桐の花に似る故である。又同植物を青森縣北津輕郡喜良市村では、ハンシヨバナと稱する。之れその花の半鐘に似るがためである。シシガシラをクシノハ、ヨロイグサ、オニカツラ等といひ、イハナシを果實の外形からゴマニギリ、ゴマミソ等と稱するもまたこの例である。

○方言トヅラ(通名クマヤナギ)は籐蔓に似る故名づけしものか。前年結實せしものが翌年紅熟するためか、之に因みてその年内に翌年の仕事をしておくこと即ち仕末のよい事を『トヅラの仕末』と呼んでゐる。(北秋田郡)

○ハコベの方言アサシラゲ、アサシラベ、とは「朝知らず」の意か。この語源はどんな意味か。御教示をお願いしたい。

○故あつて純濁音と鼻濁音の區別、齒槽部音及口蓋部音、アクセント等細密に亘る調査記入法をとり得なかつたことは遺憾である。

○次に今後における生徒諸君の採集上の参考に供するため、文學士東條操氏編「方言採集手帳」から方言の表記法に關する注意事項を抜萃しておくこととする。

方言の表記法

方言記録の價値の半分は、表記法の正否にかゝつてゐる。即ち表記法が完全なら方言はその發音は勿論、音調までも、讀者に原音のまゝで再現して来るべき筈である。

こんな理由から表記に使ふ文字には萬國音標文字を理想として推奨する。(市河三喜氏著、萬國音標文字、光風館發行、參照)しかし、この文字に慣れない採集者のためには假名の使用をすゝめたい。ローマ字は中途半端であまり感心しない。

假名の使用については次の二ヶ條に注意していただきたい。

一、標準音(東京音)と同じ發音は片假名で寫す。但し發音通りに寫し、所謂假名づかひに拘泥しないこと。

二、標準音にない音は、類似音を表はす平假名で寫す。この平假名で代表させる音の性質は別に細かく説明すること。

この中で特に注意すべきことは、口、い、ふ、通、り、に、書、く、と、云、ふ、こ、と、である。

例へば東京語で「女は今日田舎へ歸つた」といふ時は之を寫音して

オンナワ、キョー、イナカエ、カエッタ。

と表記する。よほど注意しないと助詞即ち「てにをは」や「動詞の語尾」は舊來の假名遣に囚はれやすい。又この表記の中に漢字は絶対にまぜてはいけない。之も數字は不注意からよく混ぜることがある。

以下、假名の表音法につき、本書の約束を述べて置く。

一、拗音は「シャシン」(寫眞)「シューシン」(修身)「クツジ」(火事)のやうに寫す。(クツは標準音と見なす)

二、促音は「リップバ」(立派)「コッチ」(此方)「ガッコウ」(學校)「イッシン」(一心)のやうに寫す。

三、長音は「サトー」(砂糖)「メープツ」(名物)「イコー」(行かう)のやうに寫す。

四、鼻音は「シンバイ」(心配)「ギンナン」(銀杏)「ギンコー」(銀行)のやうに寫す。

東京音の馬の如きも「シマ」と寫す。

五、アクセントは右側に線を引いて、その所在を示す。

東京語ならば

ハシ(橋) ハシ(箸) ハジ(端)

最後の例は所謂アクセントの無い言葉である。

六、東京語の語中に現はれる「鼻にかゝる加行濁音」は

ガキグゲゴで寫す。

ゴンゴ(五合)

七、東京語の「先行多行濁音の以段と字段の音」は一種の特別な音となつてゐるが、便宜上、「ジ」「ズ」で寫す。

ジシン(地震) チズ(地圖)

東京音にない音は前にいつた通り類似の平假名で表す。

モツ(餅) ひカリ(光) ミヅ(水)

で molai, Iihari, midu の方音を寫す如きはその一例である。この場合には使用平假名とその音標を發音符號表に列擧することを忘れてはならない。表記法の秘訣は全冊を通じ嚴密に一音一字、一字一音主義で一貫する事にある。(以上、方言採集手帳五——七頁)

○或る地方に行はれてゐる植物名を分類すれば、次の如くである。

一、通名と同形のもの オーバコ

二、通名の訛れるもの オバコ

三、通名と別系のもの マルコッパ

普通(二)を訛語、(三)を方語といひ、(一)、(二)、(三)を總稱して方言といふのであるから、方言調査にはこの全部を採集すべきであるが本書には(二)、(三)を収録した。次版には更に(一)を加へ、通名の配布状態をも明示したいと思ふ。

○終りに私は、始終親切なる御指導に甘えて貴重な時間をさいていたゞく理學博士牧野富太郎氏並に林業試験場柳田由藏氏、本校へ赴任以來、本縣における同好の先輩として御指導を賜はれる大館男子小學校佐賀徳治氏に對し深く謝意を表するものである。

○尙、本書に記入した(立山氏による)とは、昭和三年七月二十五日發行植物研究雜誌第五卷第七號所載の鹿角郡毛馬内町、立山廉吉氏著、「秋田縣鹿角郡地方ニ於ケル植物方言等ノ事」を、又(大久保氏による)とは本校教諭大久保作治氏を指す。大久保先生は御多忙の中から特に編者のため種々と御教導下され、なほ題簽は同先生の揮毫を煩はしたものである。
こゝに兩氏に對して厚く謝意を表する次第である。

昭和五年二月十一日

伊勢堂の森、鷹巢農林「林業科」標本室にて

水 口

清

語

彙

(市)	(由)	(雄)	(平)	(河)	(仙)	(山)	(南)	(北)	(鹿)
は	は	は	は	は	は	は	は	は	は
秋	由	雄	平	河	仙	山	南	北	鹿
田	利	勝	鹿	邊	北	本	秋	秋	角
市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡

秋田の植物方言

語彙

(ア) の 部

アエー(又はアエッコ)(全縣) ミヤマイラクサ、この草をとつてアエモノとなし食用する故「アエノコ」から轉訛してアエー(又はアエッコ)となりしか。(大久保氏による) 又は本縣一帯にアッといふ場合、アエーと叫ぶ。されば盛夏の候、山中でこの植物に生ぜる毒針に觸れて、突然アエーといふ叫聲をあげる故かくは名づけしものか。融雪後もえ出たこの幼莖はボンナ(或はホンナ)や、シドケ、ミヅなどと共にこの郷土における豊富な天生食用植物の一つである、そのアサ漬としたものに忘れられぬ味覺がある。

イラクサの葉が對生であるに對し、之は互生である。

- アゴキ (北) イラクサ
- アエノコ (南) ミヤマイラクサ
- アヲガライモ (北) サトイモ
- アヲキバ (全縣) アチキ
- アヲタモ (全縣) コバノトネリコ(アヲタゴ)
- アヲタモ (全縣) コバノトネリコ(アヲタゴ)

アヲツタ (鹿) ツルマサキ
 アヲドロ (北) ボブラ(「アメリカ」ヤマナラシ)
 アカウツギ (北) キブシ

アカシバ (北) キブシ、枝赤き故か。
 ○果實を五倍子の代品とす。故にキブシ又は豆ブシの名あり。(牧野、植物圖鑑)

アカシヤ (全縣) ニセアカシヤ
 アカジャ (北、山、鹿、雄) アカザ
 アガジャ (北) アカザ
 アカダモ (鹿、仙) ハルニレ
 アカハギ (鹿) ヤマブキシヨウマ
 アガマツ (南) アカマツ
 アカンチャ (北、南、仙、山、由) エゴノキ
 アカンチャラ (由、河) エゴノキ
 アキサクラ コスモス(オホハルシヤギク)
 春の櫻花に對して呼ぶのであらう。
 アキビ (鹿) ミツバアケビ
 アギビ (鹿、北、平、雄、由) ミツバアケビ
 アキボコリ (鹿) メヒシバ
 アキミ (雄) ミツバアケビ

アグビ (北、山) ミツバアケビ
 アグビ (山、南、仙、平、由、雄) ミツバアケビ
 アコボコリ (北) メヒシバ
 アサシラキ (由、南) ハコベ
 アサシラゲ (北、平、雄) ハコベ
 アジ (河) アンズ
 アジキバナ (北) シヤウジャウバカマ
 アジュウリ マクハウリ
 アジャミ (北) ノアザミ、サハアザミ、ノハラアザミ等
 アズ(アズコ) (北) アンズ
 アッコノキ (仙) イチキ(オンコ)
 アッパノチチ (鹿) ジャカウサウ
 アッポノチチ (鹿) ジャカウサウ
 秋日葉液につけた花蕾の狀が丁度アッパ(母)の乳房に似てゐる故か。
 アネコ (北) ヌスビトハギ
 アネコイタヤ (鹿) ラガラバナ
 アネッコイタヤ (山) ミツデカヘデ
 アネコグサ (北) ヌスビトハギ
 秋日この種實がしつこく人の衣服に附著する故、若い女にたとへてかく呼ぶものか。

- アバチチ ジャカウサウ
- アバツ ジャカウサウ
- アフラ (河、雄) ジャガタライモ
- アブラ (河、北) エゴマ
- アブラグサ (南、河、山) イヌゴマ エゴマに似てゐる故。
- アブラナ (南) アキギリ
- アマネ (北、鹿、仙) ウシコロシ
- アマミ (北) ウシコロシ
- アメクサ (鹿) ヘラオモダカ
- アメフリバナ (北、鹿、由) ヒルガホ及コヒルガホ
- アメボッチ (仙) キブシ
- アラデ (河、雄) ホタルキ
- アワフク (北、山、南) アワブキ
- アワバナ (全縣) ラミナヘシ 花の狀泡をふき出してゐる如き故。
- アンサイ アチサキ
- アンジウリ (雄) マクハウリ
- アンジュリー (平) マクハウリ
- アンセア (平) アチサキ
- アンブラ (南) ジャガタライモ

(イ) の 部

- イシャイラス (北) ゲンノシヨウコ
- イシャコロシ (河、由) ゲンノシヨウコ、下痢止の妙薬で現に證據があらはれるの意から通名ゲンノシヨウコと呼ぶが如く、その藥効に因みてイシャイラス、イシャコロシの方言が生れたのであらう。
- イタヤ (北、河、山、南) イタヤカヘデ
- イダヤ (北、河、山、南) イタヤカヘデ
- イツクサレ (由、北) キンミヅヒキ、タウコギ、ヌスビトハギ、ヤブジラミ、秋日これらの種子がこれらの衣服について傳播の經路を辿るため、意地悪くつきまとふ意である。
- イツノハ エゾユヅリハ
- イト (雄、鹿) アサ
- イヌノシリヌグイ (山) ゴマギ
- イヌノヘ (北) ドクダミ
- イヌヘ (北) ドクダミ
- イモバナ (北) ダーリヤ
- イワカチバ (仙) イソノキ
- イワシバナ (平) タニウツギ
- イワスシバナ (平) タニウツギ、鯛のとれる時季に開花する故か。
- イワブキ (北、由) ダイモンジサウ、濕潤なる岩石地に生ずる故。

インキバナ (南) ムラサキツユクサ

(ウ) の 部

ウクギ (北) ウコギ

ウサギカクレ (北) イヌツゲ

ウサギダマリ (北) イヌツゲ、積雪中ウサギのかくれる所となる故か。

ウサギノチチ (北) タンボボ

ウシノシタ (南) オホバウバユリの葉

ウシボンナ (南、北) タマブキ

ウバガシラ (鹿、北) オキナグサ

ウバケヤケヤ (河、北) オキナグサ

ウマアジミ (河、北) ノハラアザミ

ウマオドロカシ (河、山) ドクウツギ

ウマオドロキス (北) ドクウツギ

ウマシカン スイバ

ウマジミ (鹿、北) オホカメノキ

ウマゼリ (雄) キツネノボタン

ウマダ (雄) オホバボダイジュ

ウマツツシ レンゲツツジ

ウマノキ (北) ドクウツギ

ウマノサト (北) スギナ

ウマホーツキ (鹿) イガホホヅキ

ウメボトケ ウメモドキ

ウラジロ (鹿) ヒロハノカハラサイコ

ウラジロ (山、北) ギンドロ

ウリ (雄、北) ミヅギバウシ

ウリキ (南) ウリハダカヘデ

ウリノキ (鹿、仙) ウリハダカヘデ

ウルヒ (鹿) ミヅギバウシ

ウシマゼリ ドクゼリ

ウド (北) ウド

(エ) の 部

エグサ キ

エグシコ (河) ホウセンクワ

エチヨイ イテフ

エチクサレ (由、河) ヤブジラミ

エチクサレ (南) タウコギ

エツゴ (北) イチゴ
 エツゴバラ (南) モミヂイチゴ
 エッチョ (平) イテフ
 エッチョー (平) イテフ
 エドシカンコ (由) カタバミ
 エドノキ (北) カンボク
 エビクサ マツモ
 エノミ (南) エノキ
 エモノゴ (河、仙、平、雄、由) サトイモ
 エングツ (平) ホウセンクラ
 エンコノケツノゴイ (由) ゴマギ
 エジゴ (南) クサイチゴ
 エンジュ (鹿、北) イヌエンジュ
 エンシヨウグサ チカラシバ
 エンチヨノキ (山) イテフ
 エンジ (北) イヌエンジュ
 エンマキ (鹿) コマユミ

(オ) の 部

オージョミ (南) オホカメノキ
 オゼリ (北) ドクゼリ
 オゾミ (南) ミヤマガマズミ
 オブドロー (南) ヤマブドウ
 オーレン (鹿) ミツバワウレン
 オイランバナ オホマツヨヒグサ
 オコギ (北、河) ウコギ
 オサクサ (河、雄) シシガシラ
 オゼリ (鹿) キツネノボタン
 オチバマツ (北、山) カラマツ
 オッコ (北、山、南、平) イチキ(オンコ)
 オッコノキ (山、北) イチキ(オンコ)
 オット 櫻桃
 オトコマツ (由) クロマツ
 オドロカシ (仙) ドクウツギ
 オナゴマツ (北) アカマツ
 オニアサミ (由) ノハラアザミ
 オニカツラ シシガシラ
 オニバラ (北) サルトリイバラ

オニノシタ (鹿) コタニワタリ
 オニノテ (山) ヤツデ
 オバカシラ (鹿、北) オキナグサ
 オバマタ オホバシナノキ
 オバマンダ オホバシナノキ
 オバマンダ (鹿) オホバシナノキ
 オヒョー (鹿、南) オヒョウニレ
 オヒョーダモ (仙) オヒョウニレ
 オベロ (鹿) オホバウバユリ
 オマツリカイッコ (鹿) ガガイモ
 ランナマツ (由) アカマツ

(カ) の 部

カイクサ (鹿) ムカゴイラクサ
 カイクサ (鹿、北) イラクサ
 カイバツ (北、山、平) キヤベツ
 カイベツ (北) キヤベツ
 カエビツ (山) キヤベツ
 カキシバ (北) サハラ(垣柴の意) 生垣に用ふる故か。

カキシバ (北) ミヅキ
 カキノキ ミヅキ
 カギフカケ (山) ミヅキ
 カギヒキバナ スミレ
 カゲビキ ミヅキ
 カゲビキ (鹿) ミヅキ ○掛引の轉訛である。小兒等この枝をとりて鉤状として互に掛引きて又部の折れんことを争ひ遊ぶ。(立山氏による)
 カゴクサ ウツボグサ
 カゴソ (北) ウツボグサ
 ガサ (由、南) タニウツギ
 カザグルマ クルマバナ
 ガサキ (鹿) タニウツギ
 ガジキ マコモ
 カシバミ (北) ツノハシバミ
 カシバノミ (北) ツノハシバミ
 カシマメ (鹿) ツノハシバミ
 ガジャ (鹿、北) タニウツギ
 ガスキ (南、仙、雄) マコモ
 カダウリ (山、仙、雄) シロウリ

カタコ カタクリ
 カタゴ カタクリ
 カタシブ (鹿) アヅキナシ
 カダスキ (北、南) アヅキナシ
 カタフシ (由) ヒシ
 ガチャチャ (鹿) タケニグサ ○蒴果が風に吹かれて鳴る状よりいふ。(立山氏による)
 カッコバナ (鹿、平) ラダマキ及ヤマラダマキ
 カッパノシリヌグイ (鹿、北) アキノウナギツカミ
 ガツギ マコモ
 カッコ (鹿) アツモクサウ
 カツラ (南) カツラ
 カデコ (北) シヤウジヤウバカマ
 カド カハホネ
 カドー カハホネ
 カドロ (鹿、北) ドロ
 カネクサ (南) ヒルムシロ
 カノカ (鹿、北) シバ
 カノゴ (南) シバ
 カノハシ (平) ゲンノシヨウコ、この草の花後生じた長き蒴の状が蚊のクチバシに似てゐる故。

カバ (北、山、南) オホヤマザクラ
 ガビ (北) ネズコ
 カブコ (平) カブラ
 カプトギク (北) トリカプト
 カプトグサ (鹿) トリカプト
 カブラムシ (鹿) カラスビシヤク
 カブリグサ (雄) ニガナ
 カベトシ カキドホシ
 カマツカ (南) ウシコロシ
 カミシバ (北) イヌツゲ、櫛の代りに用ふる故か。
 カメコツツジ (北、南) ウラジロヤウラク
 カメコツツジ (鹿) ドウダンツツジ
 カモグサ (北) ックシ、男陰に似る故。
 カヤ (鹿) ムラサキスキ
 カヤ ススキ
 カラアオイ (鹿) タチアフヒ
 カラオエ (仙) タチアフヒ
 カラウツギ (山) キンギンボク
 カラコ (鹿) シユウリザクラ

カラクサ (河) ヤナギタデ、辛味アル故。
 カラスウリ キカラスウリ
 カラスジヨミ (南) カンボク
 カラスミツ (鹿、北、南) ツリフネサウ及キツリフネサウ
 カラスミンヅ (平) ツリフネサウ
 カラスマッコ (平、雄) キカラスウリ
 カラスマル (南、山) キカラスウリ
 カワグルミ (北) サハグルミ
 カワフシベ タネツケバナ、方言フシベはワサビを意味す。
 カワヤナギ (南) イヌコリヤナギ
 ガンノカモ (北) ツクシ
 カンコバナコ (鹿) スミレ屬
 ガンザノキ (山) タニウツギ
 カンザシグサ (北) クジヤクシダ、カンザシの形に似るの意か。
 カンソ ヤブカンゾウ
 ガンチヤシバ (北) タニウツギ
 ガンドコロ (鹿) ウチハドコロ
 カンドロ (北、山) ボブラ(「アメリカ」ヤマナラシ)
 ガンビ (鹿、北、南) ウダイカンバ及ダケカンバ

ガンビ (鹿、北、南) 同右
 カンビ (北) ヤブカンゾウ
 カンブ カブラ
 カンペロ (北) ヤブカンゾウの嫩葉

(キ) の 部

キカズカラ (北) タケニグサ
 キク (北) キク
 キズンソ (平) ユキノシタ
 キンヒノキ (北) ヒノキ、方言ヒノキはヒバを意味す。木曾から來たヒノキの意。
 キツネノアツキ ヤブマメ
 キツネノケラ (北、河) ヒカゲノカヅラ、方言ケラはミノ(簍)を意味す。
 キツネノササギ クララ
 キツネノシヨロ (由) ヒカゲノカヅラ
 キツネノシヤミセンコ (北) ナヅナ
 キツネノマメ ヤブマメ
 キツネマメ ヤブマメ
 キツネヲ (南) ヒカゲノカヅラ
 キノミミ サルノコシカケ

キノメ (平) ミツバアケビの新芽
 キノモエ (北) 同右
 キミ (由、鹿、北) タウモロコシ
 キユリ (平、雄) キウリ
 キンビョー (北) ヤブクワンゾウ
 キリソー (鹿) チギタリス
 キンク (鹿、北) マクハウリ
 キンナ (由) イテフの實
 キンナン (北) イテフの實
 キミ (鹿、南) タウモロコシ

(ク) の 部

クサメノキ ハナヒリノキ
 クサヘ ノビエ
 クサヤラ (雄) クサムラ(草生地)
 クシノハ シシガシラ
 クジ (南、北) クズ
 クスリキ (北) ニガキ
 クゾ (由、鹿) クズ

グッチャ (鹿) アカソ
 クチクロ (仙) サハシバ
 クチグロ (南) サハシバ
 クチゲロ (北) サハシバ
 クチゴロ (鹿) サハシバ
 クネギ (平) クヌギ
 クノギ (南) シヌギ
 クマエチゴ (鹿、南) エビガライチゴ
 クマクマ (山) タンポポ
 クマコ タンポポ
 クリビ (北、鹿) オニグルミ
 クルビ (山、由、北) オニグルミ
 クルベノキ (仙) オニグルミ
 クルミ (南) オニグルミ
 クッシバ (鹿、河、山、北) ツノハシバミ
 クッシバミ (仙、南) ツノハシバミ
 クッダエ (雄) アギナシ
 クワッコ (雄) クハ
 クントーマメ (由) ラックワセイ

クワ_レチヨ (河、山) ヤブクワンゾウ
ク_レゾ (河、平、雄) クズ

(ケ) の 部

ケツマメ (全縣) ソラマメ
ケド (仙) ケイトウ
ケトキ (北、河、由、雄) ケイトウ
ケトキ (鹿、北) ケイトウ
ケヤケヤ (平) オキナグサ
ケンブナシ (北) ケンボナシ
ケンバ (鹿) イハオモダカ
ケンバ (南) イハオモダカ

(コ) の 部

コージ (由) カウゾ
コージシバ (北) カウゾ
コージノキ (北) カウゾ
コーセンコ (北) ホウセンクワ
ゴガツエチゴ (鹿、北) キイチゴ

ゴガツチヨ_ー ガガイモ
コガネバナ (雄) ラミナヘシ
コク_ツ (鹿、北、仙) シラクチヅル(サルナシ)
ゴゲ_ツチヨ_ー (南) ガガイモ、又イケマにも同一方言を用ふる人あり。恐らくは兩植物の酷似せる故であらう。

ゴゴ (南) タンボボ、小兒等花梗を切りとつてふくとときゴ_ーと鳴る故。(内川村)
コゴノキ (南) ウハミヅザクラ
コゴミ (鹿、北) クサソテツ
コササ チヂミザサ
コサブナ (北) コシアブラ(ゴンゼツ)
コサブロー (山、南) コシアブラ
ゴシ_モ (河) ジャガタライモ
ゴシ_イモ (南、鹿、市) ジャガタライモ
ゴセモ (平) ジャガタライモ
コセンコ (北) ホウセンクワ
コタチバコ (鹿) クサノワウ
ゴドエモ (山、南、河、雄) ジャガタライモ
コドロボ_ー (北) ヌスピトハギ、その種實が知らぬ間にわれらの衣服についてゐる故か。

- コヌカイラス シロツメクサ
- コハジャ (北、南) ナツハゼ
- コバアヲキ (鹿) ヒメモチ
- コハゼ (鹿、山、北、仙) ナツハゼ
- コバノマダ (仙) シナノキ
- コバノマンダ (山) シナノキ
- コブダモ (鹿) コブニレ
- コブド (北) エビヅル
- コブノキ (山) ニハトコ
- ゴホッパ (北) ヤマゴバウ(キク科)
- ゴホンマツ ゴエフマツ
- ゴマギ (鹿、北、南) ヌルデ
- ゴマソ ヌルデ
- ゴマツチ (山) ガガイモ
- ゴマチ (北) ガガイモ
- ゴマニギリ (北) イハナシ、果實の外形から斯く呼ぶのであらう。小兒好んで之を食べる。
- ゴマシソ (北) イハナシ
- ゴマンコウリ (南) マクハウリ
- ゴマンゾ (平、仙) ヌルデ

ゴミ グミの類

- コメノキ (北、鹿、山) ミツバウツギ、花が米の如く白色なる故か。新芽を食用する。
- コメノコ ユキヤナギ
- コメノゴ (南) ミツバウツギ
- コモノキ (鹿、南、北) ウハミヅザクラ
- ゴモンク (北、河) マクハウリ
- ゴヨーマツ ハヒマツ
- コリンゴ ズミ
- コンゴ (仙) ウハミヅザクラ
- ゴンゴノキ (仙) ウハミヅザクラ
- ゴンバ (平) ゴバウの葉
- コンベイト (キツネノボタン)
- ゴンボ (山、仙、平、雄、由) ゴバウ

(サ) の 部

- サイガ (鹿) ウラシロナナカマド
- サイガチ サイカチ
- サイバナ (鹿) アキノキリンサウ
- サエガ (南) ナナカマド

- サエバナ (南) アキノキリンサウ
- サグ (北) ドクゼリ
- サグミ (山、南) ナハシログミ
- サゴミ (山、南) ナハシログミ
- サグヤグ (山) シヤクヤク
- サクラ (南) ケヤマザクラ
- サグラ (南) オホヤマザクラ
- サクラキ (山) シヤクナゲ
- サゴロ (仙) キササゲ
- ササキ (由、鹿、山、南、仙、雄) ササゲ
- サシドリ (鹿、北、南、河、雄、市) イタドリ
- サシヒロ (市、平) ネギの一種
- サスドリ (北) イタドリ
- サセドリ (北) イタドリ
- サダメシ (山、仙) リヤウブ
- サダメシバ (山) リヤウブ
- サツキエチゴ (仙) キイチゴ
- サツキバナ ミヤコグサ
- サトハコベ (鹿) ウシハコベ

- サトユリ オニユリ
- サナヅラ (平、南、鹿、北) ギヤウジヤノミヅ(サンカクヅル)
- サナヅラブンド (北) 同右
- サネコバナ ツユクサ
- サビタ (北、南) ノリノキ
- サビタ (鹿、北、山、南) ノリノキ
- サミセングサ (北) ナヅナ
- サラコ (鹿) アヅマギク
- サルイチゴ (仙) エビガライテゴ
- サルグサ (北) シシガシラ
- サルダメシ (仙、北、南) リヤウブ
- サンカクバラ サルトリイバラ
- サンゴバラ (南) サルトリイバラ
- サンシヨノキ イヌザンセウ
- サンバツ ナナモミ

(シ) の 部

- シエアンシヨ (河) サンセウ
- シニタケ (南) シヒタケ

- シエリコ (仙) セリ
- ジエンミエ (仙) ゼンマイ
- シカクソバ (鹿) ウツボグサ
- シカシカ (山) カタバミ
- シガワリ (鹿) エンダウ、「シガ」とは氷の意。春季「コホリ」をわつて出てくる故。
- シカンコ (北、南) カタバミ
- シカンコ (河、北) スイバ
- シカンホ (仙) カタバミ
- ジクベ (平) ツクシ
- ジグベ (市、雄) ツクシ
- シグツ (山) スイクワ
- シケアシケアコ (雄) カタバミ
- シコノヘ (北) キハダ
- シコロ (鹿、山、河、北) キハダ
- シコロベ (山) キハダ
- シドケ (全縣) モミヂガサ
- シノベ (北) ギシギシ
- シノビ (鹿) ノダイワウ
- シバサクラ (鹿) タムシバ

- シバニッケイ (南) タムシバ
- シブ (北) マメガキ(シナノガキ)
- シブガキ (鹿、北、山) マメガキ
- シモフリマツ (北) ハヒマツ
- シタミ (北、由、仙、雄、南) 「ナラ」の實
- シヤガジ (北、雄) サイカチ
- シヤカチ (北、山) サイカチ
- ジャドノミミ (北) コバノカンアフヒ、「ジャド」とは盲人の意。(前田村)
- シヤナシ (雄) ウシコロシ
- シヤバナ (北) アキノキリンサウ(真中村)
- ジャヒツラ (北) カラハナサウ、方言「ジャヒ」はザラ／＼してゐることで「アバタ」を「ジャヒ」といふ。
さればザラ／＼した莖をもつ蔓草の意である。(阿仁合町)
- シヤミセンコ (仙、雄) ナツナ
- シヤンシヨ (山) サンセウ
- シユデコ (河、仙) シホデ
- ジューヤク (雄) ドクダミ
- ジュシャ (河) ジュンサイ
- シユロコ (北、仙、平、雄) ネギの一種
- ジュンシエ (雄) ジュンサイ

ジュンセア (山) ジュンサイ
 シュンデコ (平) シホデ
 ショーブ (仙、北) マルミノイヌガヤ、ハヒイヌガヤ
 ショトメ (市、河、仙) ノハナシヤウブ及その類
 ショドメ (仙、平、由) ノハナシヤウブ及その類
 ショデコ シホデ
 ショバ (鹿) ハヒイヌガヤ
 ショブ (南) ハヒイヌガヤ
 ジョミ (鹿、北、南) ガマズミ
 ジョーミ (鹿、北、南) ガマズミ
 シラクキ ドロノキ
 シラクチ (鹿) シラクチヅル
 シロアワバナ (北) オトコヘシ
 シロコウリ シロウリ
 シンギク シュンギク
 シンショーバ シソ

(ス) の 部

スィンギク (河) シュンギク

スーグッ (雄) スイクワ
 スラヂ (仙) ヤチダモ
 スグッ (山) スイクワ
 スカスカ (北、鹿) スイバ
 スカヅラ (北) スヒカヅラ
 スカナ スイバ
 スガワリ (鹿) エンドウ
 スカンコ (市、平) カタバミ
 スカンコ (北) スイバ
 スカンシヨ (鹿) タチカタバミ
 スカンボ (平) カタバミ
 スキガラ (鹿) アギナシ
 スギコグサ スギナ
 スギナグサ スギナ
 スクベ (市、仙、由) ツクシ
 スクンベ (平、雄) ツクシ
 スケアスケアコ (雄) カタバミ
 スゲハツクリ (南) ホクロ
 ズサキ (平) エゴノキ

スズメグサ (山) ハコベ
 スズメスカンコ カタバミ
 スソ (平、雄) シソ
 ズクベ (市、由) ツクシ
 スノベ (北) ギシギシ
 スベラベロ スベリヒユ
 スグリ (南) スグリ

(セ) の 部

セアガズ (平) サイカチ
 セアシ (山、鹿) サンセウ
 セアソ (北) サンセウ
 セイヨイヤナギ (北) ボブラ
 セキリグサ (雄) ゲンノシヨウコ
 ゼニアオイ (鹿) コバノカンアフヒ
 ゼニクサ ユキノシタ
 センノキ (北、由、仙) ハリギリ
 センゴバラ サルトリイバラ
 センフリ (全縣) センブリ

ゼンメア (北、平、雄、由) ゼンマイ

(ソ) の 部

ゾーミ (河、北) ガマズミ
 ソーメンコ (雄) スギナ
 ゴーノミ ガマズミ
 ソーブノキ (北) イヌガヤ
 ソブキ (北) イヌガヤ
 ゴミ (南、鹿) ガマズミ
 ソッペナシ (鹿) クサボタン
 ソデコ (鹿、南、北) シホデ
 ソデッコ (北、南) ノホデ
 ソトメ (北) ノハナシヤウブ
 ソネノキ (仙) アカシデ
 ソモッコ (北) ウマノスズクサ
 ソロノキ (山、北) アカシデ

(タ) の 部

タウチザクラ (鹿、北) コブシ

タウエザクラ (北) コブシ
 ダエゴ (北) ダイコン
 タカドー (鹿、山、南) アキカラマツ
 タカトグサ (雄) アキカラマツ
 タカノシ (由) ヤドリギ、鷹の巢の意。
 タカノヒョー ヤドリギ
 ダケサイカチ (仙) ミヤマナナカマド
 タコギ タウコギ
 タチイチゴ (鹿、北) クマイチゴ
 タチバコ (鹿、北) タケニグサ
 タチバナ (鹿) ラカトラノヲ
 タチマチグサ ゲンノシヨウコ
 タデクサ (北) イヌタデ、オホイヌタデ、ネバリタデ、ヤナギタデ
 タニコサズ トリカブト、有毒植物なる故か。
 タネマキサクラ (仙) コブシ
 ダブリグサ (北) ツユクサ
 タマビロ (北) ノビル
 タムシグサ (鹿) クサノワウ
 ダミバナ (北) カハラハハコ、方言「ダミ」とは葬式のこと。即ち葬式に用ふる花の意。

タモ (北、山、南) ヤチダモ
 タラノホー (北) タラノキ
 ダンブリグサ (鹿、北、山) ツユクサ、方言ダンブリとは「トンボ」の意。小兒等この花を「トンボ」に食はせる故かく呼ぶのである。
 (子) の 部
 チイキシバ (鹿) キブシ
 チイノキシバ (北、山) キブシ
 チギ ツキ
 チクビ ツクシ
 チクベ (平、北) ツクシ
 チグミ (鹿) アカモノ
 チゴクイバラ サルトリイバラ
 チゴクサイカチ ネムノキ
 チゴクソバ (鹿) ドクダミ
 チゴクバラ (北、鹿) サルトリイバラ
 チゴクバナ (南) ネムノキ
 チサキ (山、南) エゴノキ
 チサッキ (北) エゴノキ

チサノキ (南) エゴノキ
 チソ (河、北) シソ
 チダケ (鹿、南) ネマガリダケ
 チヂコ (鹿) ハハコグサ
 チヂコ (北) カハラハハコ
 チツチャク (鹿) アブラチヤン
 チツチャクシバ (山) アブラチヤン
 チョコレコ (河) オホバコ
 チョクコ オホバコ
 チョチヨバ (南) オホバコ
 チョチヨリバ (仙) オホバコ
 チヨホリコ オホバコ
 チヨリバ (山、南) オホバコ
 チヨリチヨリバ オホバコ
 チンチヨ (鹿) ヤマハハコ
 チヂコ (北) カハラハハコ
 チシゴクマッコー ネムノキ

(ツ) の 部

ツカナ (由) イタドリ
 ツガルヒノキ ヒバ
 ツゲ (北、山、南) イヌツゲ
 ツゲ (南) アカミノイヌツゲ
 ツソ (南、由) シソ
 ツタ (鹿、北) イハガラミ
 ツタ (鹿) ゴトウヅル
 ツツギ (山) ヤマツツジ
 ツツコ カハラハハコ
 ツホクサ ツユクサ
 ツベノゴ (仙) ツクシ
 ツラスグリ (鹿) コマガダケスグリ
 ツリガネグサ チダマキ
 ツルマメ (北) エンドウ
 ツンバグラノカガサン (平) オホバコ

(テ) の 部

テアゴ (全縣) ダイコン
 テアゴン (山、由) ダイコン

テッポーダマ キンギンボク
 テテポボ (鹿) タンボボ
 デデポボ (鹿) タンボボ
 テリコバコ (鹿) オホバコ
 デロノキ ドロノキ
 デンスケ (仙) イタドリ

(ト) の 部

トーギ タウキ
 トーキミ タウモロコシ
 トーグッソ トウグワ
 トーヤクソ (鹿) センブリ
 ドカタグサ ヒメムカシヨモギ
 ドガラソ (平) イタドリ
 トキシラス (北、鹿) ヒナギク
 トキビ (平) タウモロコシ
 ドクダビ (雄、平) ドクダミ
 ドダダンビ (平、山、由、雄) ドクダミ
 ドクタンベ ドクダミ

ドクツツジ (鹿) レンゲツツジ
 ドクラギ (北) ドクダミ
 ドコロ (鹿) オニドコロ
 トゴロ (南) オニドコロ
 トシベ 平
 トシメ 平
 ドスナラ (鹿) クロウメモドキ
 トチ (南) トチノキ
 トチノキ (山) トチノキ
 トチラ (北、山、南) クマヤナギ
 トッキビ (北、仙) タウモロコシ
 ドッチツカズ (鹿) クサボタン
 トツラ (鹿、北、南、山、仙) クマヤナギ
 トツル (南) クマヤナギ
 トットラ (鹿) バアソブ
 ドドガラ (北) タケニグサ
 ドドーガラ (南) タケニグサ
 トナス (由) カボチャ
 トノギ (山、南) クサギ

- ドフラ (山、南、河、仙) カボチャ
- ドブリクサ (雄) ツユクサ
- トリアシ (鹿、北、雄) トリアシシヨウマ
- トリキ (北、南) クロモジ
- トリキシバ (鹿、北、河、仙、由、南) クロモジ
- トリコシバ (北、山、南) クロモジ
- トリコバコ (南) オホバコ
- トリコバッコ (南) オホバコ
- トリトマラス (平) ニシキギ
- トリトマラス (仙) クロウメモドキ
- ドロ (北) ヤマナラシ
- ドロノキ (北、仙) ヤマナラシ
- トロロイモ ヤマノイモ
- トロロン (市) ヤマノイモノ汁
- ドンガラ (仙、平) イタドリ
- ドンガラシボ (平、雄) イタドリ
- ドングリ (仙、北) クスギ
- トンスラ (平) クマヤナギ
- トンヂ (北、山) トチノキ

- トンドガラ (河) タケニグサ
- トンノキ (仙) クサギ
- トンブリ (平、北) ハハキグサの實
- トンボソ (北) ツユクサ
- トンボノチチ (由) チシバリ

(ナ) の 部

- ナガイモ (鹿) ヤマノイモ
- ナガラベソ (鹿) グラジオラス
- ナガラベツチ (鹿) グラジオラス「ナーガルブルーム」の轉訛(立山氏による)
- ナゴミ (鹿、北) キンミヅヒキ
- ナテン ナンテン
- ナベコ (北) オホナラの果實の殻斗
- ナベシカシカ (南) カタバミ
- ナベブカシ (北) イヌツゲ、之を燃やすとバチ／＼はねて鍋をこはす様であるとの意。方言「ブカス」は打ちこはすの意味である。
- ナモミ (平) ミヅヒキ、ヌスビトハギ及ヤブジラミ
- ナラノキ (北) コナラ、オホナラ及モンゴリカシハ
- ナンキンマメ ラツクワセイ

ナンバ (平、河、北) タウガラシ
ナンバン (鹿、南、北) タウガラシ

(ニ) の 部

ニガユリ オニユリ
ニガヨロ オニユリ
ニシゴリ (北) ルリミノウシコロシ(サハフタギ)
ニシコリ (鹿) 同右
ニシコリ (南) ムラサキシキブ
ニツケイ (山) タムシバ
ニドエモ (北、雄、河、由、山、鹿) ジャガタライモ
ニドマメ (北) エンドウ
ニニク ニンニク
ニヨイ (南) エゾニウ及ハナウド
ニラマツ (北、山) カウヤマキ
ニワドク (平) ニハトコ
ニドエモ (平、河、仙、雄) ジャガタライモ

(又) の 部

又サバリグサ ヤブジラミ
又サバリコ ヤブジラミ
又スミ (北) ヌスビトハギ
又スビトノアシ (北) オニノヤガラ
又ノバ ツリガネニンジン

(ネ) の 部

ネコツラ (鹿) ボタンヅル
ネコノヲ (鹿) チカラシバ
ネコノカモコ (北) ツクシ
ネコ ヤナギの芽
ネコバナ (鹿) タチツボスミレ
ネズ ネズコ
ネチグサ (鹿) ナギナタカウジユ
ネチリシバ (山) オホカメノキ
ネチリバナ ネチバナ
ネチリバナ (鹿) グラジオラス
ネツコ ネズコ
ネツリシバ (鹿) リヤウブ

ネナシヂラ ネナシカヅラ
 ネナシ (鹿) ネナシカヅラ
 ネブタ (北) ネムノキ
 ネブタギ (北) ネムノキ
 ネブタキ (北) ネムノキ
 ネンジ (鹿、北、南) ニンジン
 ネンジンコ (平) ニンジン
 ネンプタ (平) ネムノキ
 ネンボ (鹿) イタドリ(尾去澤村笹小屋)

(ノ) の 部

ノアサガホ マヒルガホ
 ノギク (鹿、北、雄) ユウガギク、ノコンギク
 ノサバリコ キンミヅヒキ、ヌスビトハギ
 ノサシバリコ ヌスビトハギ
 ノナデシコ カハラナデシコ
 ノノバ ツリガネニンジン
 ノバラ ノイバラ
 ノブドー エビヅル

ノヘ (北) ノビエ
 ノミトリバナ ムシヨケグサ

(ハ) の 部

ハイビョーソー タウコギ、この莖葉を煎用すれば肺病に効ありといはれし故か。但し今日では、その薬効は疑問に附せられてゐる。

ハエドリグサ (南) ハイドクサウ
 バカヨモギ (鹿、北) ヒメムカシヨモギ、所嫌はず繁茂する故か。
 バカマルベ (北) クワマン
 ハキ ハハキクサ
 ハギシバ (仙、南) ツクバネウツギ及コマユミ、この枝で箒をつくる故。
 ハグサ (鹿) エノコログサ
 ハコベ (北) ハコベ及ウシハコベ
 ハゴノキ ツクバネウツギ
 ハサミグサ (北) アギナシ 葉状ハサミに似る故。
 ハチフタデ (鹿) オホイヌタデ
 ハツカグサ (北) ナギナタカウジュ
 バツケ (南、北、山) フキの「タウ」
 バツケヤ (南、北) フキの「タウ」

- ハナノキ (鹿、南) ハウチハカヘデ及コハウチハカヘデ
- ハナイブシ (北) ハナヒリノキ
- ハナシモギ (南、平) ハナヒリノキ
- ババフグリノケ オキナグサ
- ハビロ (北、山、鹿、仙、南) ハクウンボク
- ハビラ ハクウンボク
- ハマガキ (鹿) ツルウメモドキ
- バラ (鹿、南) ノイバラ
- バラ (山、北) ハマナス
- ハンノキ (鹿) ヤマハンノキ

(ヒ) の 部

- ヒニグサ (北) ノビエ
- ビガガス (南) イヌツゲ
- ヒカツラ (鹿) スヒカツラ
- ヒキサクラ (仙) コブシ
- ヒタリマキ (北) ネヂバナ
- ビッキグサ (南) オホバコ
- ビキノハ (河、由) オホバコ、「ビツキ」とは「カヘル」のこと。この草ムラに「カヘル」が住む故か。

- ヒトツバ (鹿) アチハダ
- ヒノ (北、河、仙、南) ワサビ
- ヒノキ (全縣) ヒバ
- ヒノマル (南) ヒマハリ
- ビビ (鹿) ヤブカンゾウ、早春未だ開展せざるものを兒女等とり來り葉を一枚づつ解き、その丸く抱
 掩せる部を一二寸に切り口に銜みて吹き鳴す。ビビはその鳴音より來れるならんか。(立山氏によ
 る)
- ヒヤクナンギ シヤクヤク
- ヒヨ (北、仙) ヤドリギ
- ヒヨコグサ ハコベ
- ヒヨコノエ ハコベ
- ヒヨブ (仙) マルミノイヌガヤ
- ヒョータンウツギ (鹿、北) キンギンボク
- ヒヨリバナ マツバボタン
- ヒヨロ ヤドリギ
- ヒラアザミ (北) サハアザミ
- ヒリ (河) セリ
- ヒルクサ (北) チドメグサ 「ヒル」に咬まれたときこの葉をもみてつける故か。
- ビルクサ (北) ヒルムシロ

- ビロクサ (北) ヒルムシロ
- ヒロクサ (鹿、河、北) チドメダサ
- ヒンノキ (山) ハリギリ
- ビンカカズ (由) イヌツゲ
- ビンカガズ (南、河、由) イヌツゲ、秋田縣廳、林務課技師鈴木一郎氏は「秋田の林業」第六十四號所載の拙稿「植物方言採集手帳から」に關して、次の如き御書面を送られた。面白い解釋だと思ふ。こゝに同氏に謝意を表するものである。『イヌツゲを當地方にて「ビンカガズ」と申す由、然るに小生郷里(遠江方面)にては「ツゲ」の方言を「ビンカキ」と稱し申し候。ツゲは楠となるにつき「ビンカキ」といひ、イヌツゲは楠とならざるにつき、「ビンカガズ」といふや。一寸面白き對照に有之候。』
- ビンドロバナ (南) オヤマリンダウ
- ヒンフリ (北) センブリ

(フ) の 部

- フエ (北) ヒエ
- フギ (南) アキタブキ
- フクジソ ー フクジユサウ
- フクジンソ ー フクジユサウ
- フクラバシ (鹿) ペンケイサウ、兒女等この葉片をとりて手にてもみ柔軟となす時は葉の表裏隔離して囊状となるを以て口に啣へて膨して遊ぶ。(立山氏による)

- フシ (北) ヒシ
- ブシ (鹿) キンギンボク、ブシは附子(トリカブト)屬から來たものではあるまいか。この樹の實には毒があつて、食へば人を殺すこと恰も附子の如ければ斯くいふのであらうと思ふ。(牧野博士による)
- フシノキ (北) ヌルデ
- フシコ ヒシ
- フスベ (北) ワサビ
- フヂグミ (北) ツルウメモドキ
- フトツバ (南) アヲハダ
- ブドー (仙) エビヅル
- ブト (南) ギヤウジヤノミヅ
- ブナ (全縣) イヌブナ及ブナ
- ブルブルクサ (雄) クルマバナ、小兒等この花をとりて、小枝にさし之をふく時クル／＼とまはる故(仙道村下仙道)
- ブンド (北) ブダウ

(ヘ) の 部

- ヘ (北) ヒエ
- ヘクサ (北) ノビエ

ベコグサ (北) ミゾツバ、方言「ベコ」とは牛のことである。恩師牧野博士は昭和三年七月発行植物研究雑誌において次の如く述べられてゐる。『ミゾツバは野外の溝瀆などに多く生ずる普通の雑草で秋になつて熾んに花が咲くものであるが此草は牛が嗜んでこれを食ふが然し花が咲けば食はなくならぬ事を曾て信州松本の高専学校生物學教室に在勤の理學士宮地數千木君に聞いたことがある。是れはまさか此草の一名をウシノヒタイといつて其葉が牛の額額に似て居るからそれをなつかしみて食ふのでもあるまい。呵々』

- ベコツツジ (仙) レンゲツツジ
- ベコノシタ (北、南) ミヅバセウ
- ベコヤナギ (北) ヤマネコヤナギ
- ベロクサ ツメクサ
- ベニ ベニバナ
- ヘビイチゴ (北) ヒメヘビイチゴ
- ヘビノカンコバナ (鹿) カキドホシ
- ヘビノダイマツ (北) テンナンシヤウ
- ヘビノダイモジ (北) テンナンシヤウ
- ヘビノバツコ (山、由) テンナンシヤウ
- ヘマリイチゴ (鹿) ナハシロイチゴ
- ヘー (鹿) ヤドリギ
- ベラギ (鹿) ウリノキ

- ベラギ (南) オホカメノキ
- ヘロクサ (雄) チドメグサ

(ホ) の 部

- ホーキギ (山) ツクバネウツギ
- ホーキギ コマユミ、筭とする故。
- ホオ ホホノキ
- ホーキグサ ハハキグサ
- ホーキグサ チカラシバ
- ホギ (山、南、仙、平) アキタブキ
- ホギシバ (南) ツクバネウツギ
- ホース ツクシ
- ホーセンコ ホウセンクラ
- ホキ (北、雄) アキタブキ
- ホクソー (北) ツメクサ(マメ科)
- ホタ ワラビの成長せるもの。
- ホダ (山) ワラビの成長せるもの。
- ホタルグサ (鹿) タチテンモンドウ
- ホッコ タンボボ

ホツケ (山、北) ホホヅキ
 ホヅゲア ホホヅキ
 ホドヅラ (鹿) ホド
 ホノキ (北、河、仙、南) ホホノキ
 ホフラ カボチヤ
 ホボラ カボチヤ
 ホボイタヤ (南) ヒトツバカヘデ
 ホリボリヤナギ (鹿) コゴメヤナギ
 ホリンソー ハウレンサウ
 ホンガヤ カヤ
 ホンスゲ (北) ホホヅキ
 ホンナ (仙、雄、由、河) ヨブスマサウ
 ホンナ (北、平、鹿、南、山) ヨブスマサウ
 ホンノキ (仙、山、北、由、南) ホホノキ
 ホンバナ (北) ミソハギ
 ホンバナ (南) オミナヘシ
 ホンボラ カボチヤ
 ホンボリ (北) メヒシバ

(マ) の 部

マウリ (平) マクハウリ
 マオドロカシ (北) ドクウツギ
 マガリソー メヒシバ
 マキ (山) マユミ
 マキ (雄、仙) ツリバナ
 マキシバ (鹿、北) ツリバナ
 マグリ (仙) マクハウリ
 マグリッパ (仙) オホバコ
 マシバ (鹿) ヒメヤシヤブシ
 マズコンホ (河) マツの穂果
 マタタブ (北) マタタビ
 マダノキ (北) シナノキ
 マタノキ (仙) オホバボダイジユ
 マタブ (山、北) マタタビ
 マタンブ (平) マタタビ
 マツ クロマツ、アカマツ
 マッコ (北、山) カツラ

- マッコノキ (北、南) カツラ
- マッコノキ (由、北) ネムノキ
- マツタブ (山) マタタビ
- マツブサ (鹿、北、仙) クロミノマツササ
マメ ダイツ
- マルキ (平、雄) オホバコ
- マルグ (平) オホバコ
- マルコバ (北、山) オホバコ
- マルコッバ (北、鹿) オホバコ
- マルシカンコ (北) カタバミ
- マルバ オホバコ
- マルバグサ (北) オホバコ
- マルバハンノキ (北) ヤマハンノキ
- マルベ (北、山、南) マルメコ
- マロダ (山) 丸太
- マロベ (山) マルメロ
- マングサ (河) マグサ(秣)
- マンコタマ (南) オホバジヤノヒゲ
- マンジュシカシカ (鹿) カタバミ

- マンジュバ サルトリイバラ
- マンダ (北、南) シナノキ
- マンタブ (北、山、鹿) マタタビ
- マンダブ マタタビ
- マンチヤク (鹿、北) マンサク

(ミ) の 部

- ミカド (山、雄、北) ウシクグ、莖に三陵ある故。
- ミジャチルバナ (北) ドクゼリ、流し場をミジャ(ミツヤ)といふ。されば本草はかゝる場所に生ずると
の意であらう。(上小阿仁村沖田面)
- ミチバ ミツバ
- ミツバ (北) シロツメクサ
- ミツ (全縣) ウハバミサウ(ミツ)
- ミネグサ (鹿) リヨウメンシダ

(ム) の 部

- ムストリグサ (北) マウセンゴケ
- ムラサキタンポポ (北) センボンヤリ
- ムラダチ (鹿) クロバナヒキオコシ

(メ) の 部

- メクラブド (北、南) ノブダウ
- メクラブドー (南、北) ノブダウ
- メクラブンド (北) ノブダウ
- メドノキ (南、河) カンボク
- メマツ (北) アカマツ
- メメコ ヤナギの ジウタイ 菜莢花穂
- メメンコ (平) 同右

(モ) の 部

- モガキバラ (北、雄、鹿) サルトリイバラ
- モカクバラ (北) サルトリイバラ
- モガクバラ (平、北) サルトリイバラ
- モチクサ (北) ヨモギ
- モツチノキ (由) ヤマグルマ
- モツクサ (北) ヨモギ
- モツクサ (由) ヨモギ
- モッヘン (北) イラクサ

(ヤ) の 部

- モメジ (鹿) モミヂ
- モロビ (北) アヲモリトドマツ
- モンガキバラ サルトリイバラ
- モンキ (鹿、北、南、平、河、山) ムクゲ、モクキン 木槿の轉訛。
- モンキン (北) ムクゲ
- ヤシ (北、山、南) サハグルミ
- ヤシノキ (北) サハグルミ
- ヤシリグサ トクサ、磨く意であらう。
- ヤス (仙、南) サハグルミ
- ヤスノキ (鹿、山、北、仙) サハグルミ
- ヤソ (北) ヤシヤビシヤク
- ヤソ一 (鹿) ヤシヤビシヤク
- ヤチオコキ (鹿) オニグルミ
- ヤチカタコ (仙) イソノキ
- ヤチバ (北、山、仙) ハンノキ
- ヤチバ (山) ヤマハンノキ
- ヤチバナ (北) リンダウ

- ヤツアサミ (鹿) ハンゴンサウ
- ヤツウリ ミツギバウシ
- ヤツカ (平) ハンノキ
- ヤツクッ (南) ヤマハンノキ
- ヤツバ (北) ハンノキ
- ヤツバナ (北) シヤウジヤウバカマ
- ヤナギ (南) ヲノヘヤナギ、コゴミヤナギ、イヌコリヤナギ等
- ヤマアサガホ (南) ヒルガホ
- ヤマウツギ (山) ムラサキシキブ
- ヤマウルス (山) コヤマウルシ
- ヤマガ (南) ヤマバウシ
- ヤマカラスウリ (鹿) ミヤマニガウリ
- ヤマギリ (北) イイギリ
- ヤマグミ (北) アキグミ
- ヤマグミ (山、南) ナハシログミ
- ヤマクワ (仙) ヤマバウシ
- ヤマグワ (鹿) ヤマバウシ
- ヤマケシ (北) アキノノゲシ
- ヤマコメノキ (鹿) ムラサキシキブ

- ヤマサイカチ (北) ミヤマナナカマド
- ヤマスミレ (北) アフヒスミレ
- ヤマダイコン (鹿) ツリガネニンジン
- ヤマツバキ (北、山) イヌツゲ
- ヤマチガ (北) イヌツゲ
- ヤマナデシコ カハラナデシコ
- ヤマニレ (南) アキニレ
- ヤマニンジン (鹿) イブキバウフウ
- ヤマホーセンカ (鹿) トラノヲ
- ヤマホタン (北) シラネアフヒ
- ヤマヤナギ (雄) キツネヤナギ
- ヤマリンゴ (仙) ズミ

(ヨ) の 部

- ヨガノハシ (平、雄) ゲンノシヨウコ
- ヨガノハス (雄、河) ゲンノシヨウコ、この植物の長嘴ある蒴か夜蚊の嘴によく似てゐる故。
- ヨゴミ (北、山) ヨモギ
- ヨゴミ (山、鹿) ヤマヨモギ
- ヨサクマメ (雄、河、南) エンドウ

ヨサグマメ (南、仙、平、雄) エンドウ

ヨメオコシ (北) イヌツゲ、この柴を火中に投ずれば、爆音を發する故。

ヨメトリバナ (由) キキヤウ

ヨメノハシ (鹿、北、雄) クジャクシダ、この葉柄の外観は之を花嫁の箸にしてふさはしいやうであるとの意であらう。

ヨロ (北、南) オニユリ

ヨロイグサ (北) シシガシラ

(ラ) の 部

ライギ(雷木) (北) ボブラ

(リ) の 部

リンキ (南、市) リンゴ

リンゴノカマリグサ (北) カヤツリグサ

リンド リンダウ

(レ) の 部

レンゲ (北) ハス

(ワ) の 部

ワタノキ (鹿、北) ドロノキ

ワッパバナ (北) ヒマハリ、花がワッパに似るとの意。

(ン) の 部

ンマゼリ (平) ドクゼリ

ンバチチ (平) ウツボグサ

ンバヨロ (南、北) オホバウバユリ

330
55

昭和五年五月二十八日印刷
昭和五年六月一日發行

【非賣品】

編輯兼
發行人
秋田縣鷹巣町
鷹巣農林植物同好會

印刷者
秋田市檜山廣小路三番地
柳原庭之助

印刷所
秋田市檜山廣小路三番地
はかりや印刷所

水口清

終